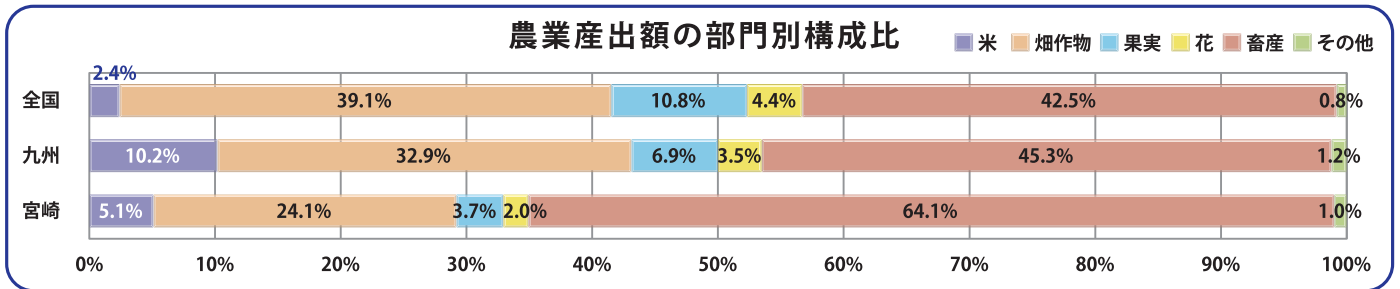


◇ 農業・特産物の概況について



※畑作物＝「麦類」＋「雑穀」＋「豆類」＋「いも類」＋「野菜」＋「工芸農作物」＋「その他作物」

※その他＝加工農産物

出典：農林水産省統計部「生産農業所得統計(H29)より」

きゅうり
きんかん
日向夏
ピーマン
マンゴー
さといも
スイートピー

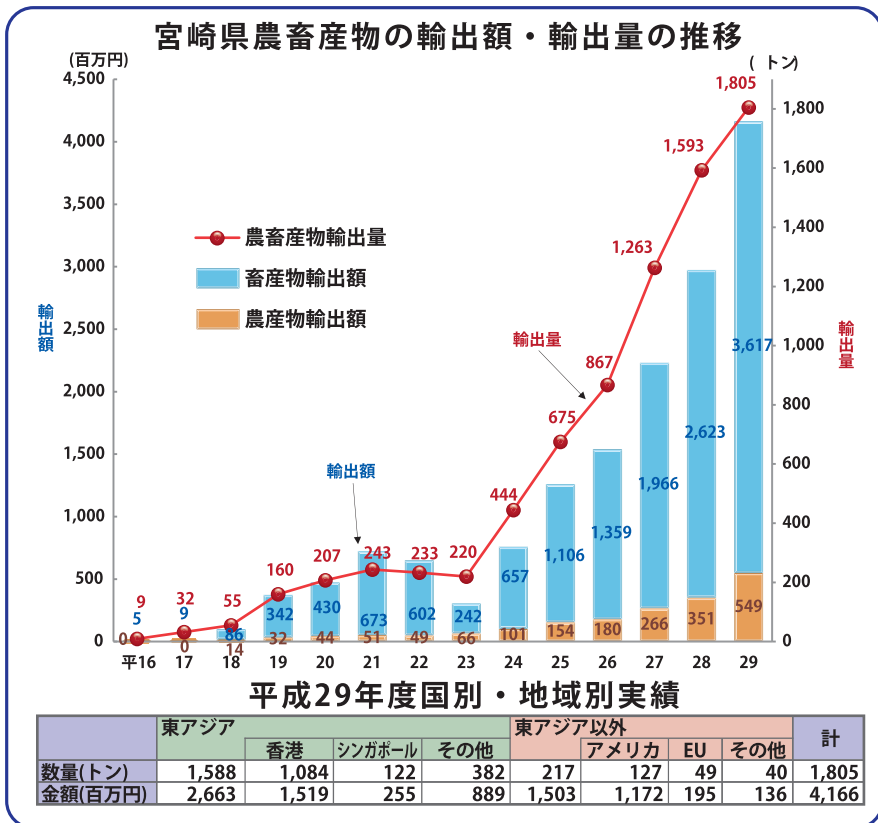
宮崎県の農業産出額は、畜産(約64.1%)と畑作物(約24.1%)が高い割合を占めている。畜産において肉用牛「全国3位」、豚「全国2位」、ブロイラー「全国1位」の産出額は全国1位～3位を占め、なかでも肉用牛「宮崎牛」が5年に1度の和牛のオリンピックである「全国和牛能力共進会」の宮城県大会(平成29年9月)で、最高賞である内閣総理大臣賞を獲得している。宮崎県の受賞は3大会連続(第9回～第11回)であり、累計4度の獲得は全国最多となっている。

野菜及び果樹等の農作物生産量においても、きゅうり「全国1位」、きんかん「全国1位」、日向夏「全国1位」、ピーマン「全国2位」、マンゴー「全国2位」、さといも「全国3位」等を占めており、これらの農作物は「東京都」、「大阪府」等の大都市等へ出荷されている。

また、宮崎県の芋・米・麦・そば等を原料とした発酵させた蒸留酒である焼酎の出荷量は4年連続で全国1位となっており、温暖多照な天候を活かしたスイートピーの収穫量は「全国1位」となっている等、農業算出額(平成29年度)が5位と全国でも上位を占めている。

(出典)農林水産省統計部「生産農業所得統計(H29)より」及び「都道府県別農業産出額及び生産農業所得(H24～H29)」、宮崎県農政水産部「統計でみる宮崎県の農業2018」

◇ 農畜作物の輸出について



近年において人口減少等により国内マーケットの縮小が見込まれる中、海外への輸出は県産農畜産物の新たな販路として期待され、特に、関税や検疫等の輸出障壁が低い香港やシンガポールは、今後も取引拡大が期待できる有望なマーケットである。

このため宮崎県では、香港を核とした東アジアを主要なターゲットとしながら「みやざきグローバル戦略」に基づき、EUや北米市場などへの販路開拓も促進しており、平成29年度の輸出額は農産物で5億4900万円、畜産物で36億1700万円となり、年々増加している。

さらに、現在の輸出の主力品目である牛肉やかんしょ、スイートピーの取引拡大に加え、新たな品目として、お茶やきんかん等の販路開拓にも取り組んでいくこととしている。

(出典)宮崎県農政水産部「統計でみる宮崎県の農業2018」一部引用